

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0196700066		
法人名	社会福祉法人 緑ヶ丘学園		
事業所名	認知症対応型グループホーム 稚内緑寿苑		
所在地	〒098-6642 稚内市声間5丁目27番20号 (電 話) 0162-26-8822		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】（平成21年10月29日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.0人	

（2）建物概要

建物構造	木造亜鉛鉄板葺き造り
	一部2階建ての 1 階

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,500 円	その他の経費（月額）	21,000～27,000 円
敷 金	有（ 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 320 円 夕食 340 円 または1日当たり 1,000 円	昼食 おやつ	340 円 0 円

（4）利用者の概要（10月29日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 84.1 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	たかはし胃腸科・内科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

知的障害者施設と高齢者介護の施設を運営する社会福祉法人が地域高齢者の福祉充実を目指し、当事業所を平成20年4月に開設した。事業所はキッチンとリビングが一体となっており、家庭的な温もりのある空間で団欒が楽しめる。また、広い浴室の中央に一人浴槽を設置し、入浴台などを使い体力低下や障害に応じた入浴をするための条件を工夫し、利用者の安全と安心を保っている。管理者や職員は、利用者の気持ちや力を活かした役割を担う場面づくりを行い、認知症状の緩和や利用者の思いや希望を叶え、その人らしく生きることへの支援と合わせて、利用者同士の和やかな雰囲気大切に、日々のケアサービスに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価での改善課題であった、家族会の活動については食事会等の活動を行っている。職員のネームプレートの着用と写真の掲示については、名前と顔が一致するよう、玄関ホールに写真を掲示し実現している。また、災害時に地域の人々の協力については利用者の安全確保を第一に考え、迅速に運営推進会議を通して課題の改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価及び評価結果は職員会議で検討してまとめている。管理者は評価のねらい等を職員に浸透させ、取り組み状況を検証しながら、課題の整理を行っている。評価結果においての改善課題については全職員と検証しながら、利用者の安全、安心と楽しい人生を営むことができるよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会副会長、地域住民、利用者、家族、市職員・地域包括支援センター職員等が参加し、事業所の取り組みや利用者の状況を報告するとともに、委員から意見や要望を受け、さらなるサービスの確保と質の向上を目指している。また、地域より協力を得るための方策などを協議し、具体的取り組みとして実現しており、地域住民との連携を図る場となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者や家族等が意見や要望を気軽に伝えることができる機会を設けている。また、職員は行事や来訪時などにも家族の意見等を聞くよう心がけ、それらを運営に反映している。近々、便りの発行を予定しており、利用者の日ごろの暮らしぶりや行事の様子を映像で家族が見ることも検討している。また、内・外部に苦情相談窓口を設けるとともに、苦情処理における対処方法を明示しており、さらには苦情解決実施要綱も掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 管理者や職員は地域に根ざす大切さを理解し、口腔ケア研修会の開催や老人クラブの集まりに参加し、保健や介護に関する相談を受けるなど住民との交流に努めている。また、行事などには利用者も参加し、地域との双方向の交流が実現している。散歩や買い物時の地域とのふれあい、ボランティアの受け入れ、地域住民からのお裾分けなど自然な付き合いをもっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を玄関ホールに掲示し、全職員に浸透し理念を実践するため日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体法人の理念は事業所の運営上の方針に具体的に盛り込んでおり、職員の採用時には必ず法人の理念を伝え、理解してもらうよう努めている。また、管理者と職員は、日々利用者に関わる際に、理念を実践に活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わすなど馴染みの関係ができており、海の幸や花をもらったり、ボランティアの受け入れや地域の祭りへの参加など、日常から交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者及び職員は、外部評価のねらいや活用方法について理解を深めており、ミーティングなどで報告し、改善に向けた具体案を検討、積極的に実践し評価を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の運営及び利用者の状況を報告している。委員から出された意見や要望、地域より協力を得るための方策などを協議し、地域住民との連携を図っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へは地域ケア会議などで事業所から積極的に情報提供し、ケアプランでの困難事例を話し合うなど、情報を共有化している。今後も行政や地域包括支援センターとの積極的な連携を目指し、サービスの確保と質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の安心を確保し、事業所との信頼や協力関係を築いている。家族の来訪時には、丁寧に利用者の日々の暮らしぶりなどを報告するとともに、利用者の健康状態に変化が見られた時には迅速に連絡、対応している。また、遠隔地に住んでいるため、なかなか来訪できない家族もいるので、近々家族便りの発行を予定している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保と向上のため、家族と接する機会には、気軽に意見や要望などを表せる雰囲気づくりに努めている。利用者や家族から出された意見などは謙虚に受け止め、それらを運営に活かしている。また、内部及び外部機関の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記しており、さらに苦情解決実施要綱も掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の待遇や資格取得及び内・外部研修へ積極的に参加する機会を提供する等、職員の育成に取り組みながら離職を最小限に抑える努力をしている。職員の交代時には引継ぎ時間等での配慮や事前に利用者とのお茶飲みの時に紹介するなど、利用者への不安を解消する配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成を重要視しており、母体法人や行政、グループホーム協議会主催等での、職員の習熟度などに応じた外部、内部研修の受講の機会を確保している。研修内容は全職員で共有化できるよう全体会議で報告し、働きながらの技術や知識のスキルアップに力を注いでいる。また、昨年度から目標管理制度を導入し、現場でともに考え助言する人材を組織の内部に確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との連携や交流の必要性を認識しており、北海道グループホーム協議会などに加盟している。また、管理者のネットワークを活かした交流や研修に参加する中、情報の収集や意見交換をし、事業所見学も随時受け入れ、ケアサービスの確保と質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に利用者や家族との面談を行い、事業所の見学を勧め、お茶をともにしながら、ゆったりとした時間を過ごしてもらいなどの工夫で馴染みの関係づくりに努めている。また、利用者の不安や家族などの状況に応じ、個別の利用調整や様々な思いの受け入れに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と日々の暮らしの中で、本人の喜びや悲しみなどの思いを共感し、理解しながら信頼関係を築いている。また、利用者の得意分野や興味のあることを把握し、調理や菜園などで活躍できる場面づくりを支援し、寄り添いながら、和やかな雰囲気を大切にして支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の心に寄り添う生活に向けて利用者に関心を払い、利用者の意向をあらゆる場面を通じて把握することに努めている。意思疎通が困難な場合は家族や関係者から情報を得て、日々のキーワードをつなげ、場合によってはホワイトボードを使って筆談などをしながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活を送るための利用者の要望や家族の意見、事業所以外の関係者の意見を含め職員間でモニタリングやカンファレンスを行い統一している。利用者と家族の思いや希望を少しでも多く叶え、その人らしい生活が送れるよう、利用者に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事業所開設時から介護計画書は3ヶ月一度、計画的に見直している。利用者の生活記録は介護計画と連動する記録方式を取っており、行動、状態、訴え、結果を記録し、達成状況や利用者一人ひとりの実情に沿っているかを確認している。また、利用者の状態変化や本人、家族の要望を取り入れつつ、随時介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の利用者及び家族の状況や急な要望に向き合い、その人らしい暮らしを守るために通院、買い物、美容院、図書館などの外出時の付き添いなど柔軟に支援している。また、市内にオープンするグループホームの職員を研修の場として受け入る予定であるなど、地域福祉を推進する上での多機能性を発揮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、かかりつけ医への受診可能な体制にあり、通院対応も家族の要望に応じている。その際には受診ノートに記録し、家族へ受診結果の報告を行い、職員間でも共有化している。また、看護師を確保しているため、利用者や家族は気軽に健康面の相談をすることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を整備し、看護師または職員が主治医との連携を図っている。重度化や終末期のあり方については、事業所の対応方針を定め、事業所ができるケアについて家族等へ契約時に説明しており、利用者や家族の希望を確認しながら情報を共有化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を用いる際は、使用目的や範囲を記した文書を明示し、守秘義務と法令順守をした取り扱いをしている。また、職員は利用者に声かけする際にも、人生の大先輩として言葉づかいに気をつけ、尊厳や誇りを損ねないような対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人が、その人らしく生きることへの支援を目指している。起床、食事、入浴等が自由で日課を設けず、利用者のペースや体調に合わせ、個々人の生活リズムを大切にすることで、自宅での生活の延長となるような支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりの力に応じた場面をつくり、食材の準備から調理、盛り付け、後片付けを一緒にを行い、食事を一日の大切な活動の一つにしている。また、菜園で種から育てたチンゲン菜などの野菜を献立に組み入れたり、外食の機会を持ち自己決定を促がすなど、食事が喜びや楽しみとなる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に、個別に沿った支援をしている。浴室は明るく清潔であり、一人浴槽を設置し入浴台の高さにこだわり、安心して安全に入浴できるような工夫で、利用者との個別の時間を大切にしている。入浴を拒む利用者に対しては言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって入浴支援を試みている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活ペースを考慮しながら、日々の暮らしが張り合いと潤いのあるものになるよう、短歌などの趣味や職員と一緒にガーデニング、畑仕事などのサポートで、自分らしく暮らせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や習慣、要望など、その時々状況に応じて、近隣の商店や公園、図書館、美容室へ行くなどの支援をしている。また、日常的な外出とは分けて、より個別性の高い外出については、家族の協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間の連携プレーができており、見守りを徹底し、外出傾向やその日の気分などを把握するとともに、玄関にセンサーを取り付けるなどして、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害計画に従い、消防署の協力を得て、避難訓練、消防設備の点検、避難経路の確認などを年に2回行い、夜間を想定した訓練も実施している。また、運営推進会議を通して、地域住民の協力を得られよう呼びかけたり、法人内の施設との連携をとる体制もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の嗜好品や苦手なものを把握するなど、生活習慣等を観察している。カロリーの過不足や栄養の偏りが起きないように、管理栄養士がメニューを作成、管理している。また、食事や水分摂取状況は、毎日生活記録表に記載し、職員間で共有化している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感に満ちたリビングには、テーブルやソファ、和風ベンチなど、利用者が団欒しやすいよう工夫した配置をしている。キッチンにはカウンターを設けず、利用者が自由に台所に立つことができ、家庭的な造りとなっている。また玄関フロアには湿度保持も兼ねた観葉植物が置いてあり、生活感、季節感があり、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの各居室には、トイレや洗面台を設置している。それぞれの生活スタイルに合わせ仏壇などを持ち込んでおり、安心できる生活環境を整えている。また、家族等からのプレゼント品や写真など思い思いに飾りつけしている。		

※  は、重点項目。